

災害時には被災者・被災地の「多様」な困りごとが発生し、その支援を行うためには「多様」な連携、立場(所属)、社会資源、視点、取り組み等が必要となります。静岡県が大規模災害に見舞われたとき、皆さんの市町では被災者・被災地がどのような状況に置かれ、どのような困りごとを抱えるのかを「多様」な視点でイメージしてみてください。まずは市町について知るために、下記のシートを参考にいただければ幸いです。

「第14回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」県内参加者向け事前課題より

お住まいの(または活動の中心となっている)市(区)・町について記入してください

■地区(西部・中部・東部・賀茂)市(区)町名()

■人口・世帯数= 人・世帯(〇〇年〇〇月現在)

■高齢化率= % (〇〇年〇〇月現在)

■障がい者の人数= 人(手帳の交付数/〇〇年〇〇月現在)

身体障害者手帳= 人 療育手帳= 人 精神障害者手帳= 人

■外国人の人数= 人(市・町が把握している人数/〇〇年〇〇月現在)

どの国籍の人が多いですか? = 1) 2) 3)

どの言語の人が多いですか? = 1) 語 2) 語 3) 語

■年間出生数= 人(調べられる一番近年で構いません/〇〇年〇〇月現在)

※例えばこの数字を6倍すると未就学児のおおよその人数がイメージできます。また、この数字から子育て世代のおおよその世帯数がイメージできます

★以下の設問については、複数回答をしてください★

※様々な地域資源や窓口があることを知るための設問です

■高齢者がサービス(支援)を受けるための窓口となっている機関や組織等はどこですか

例) 市の高齢福祉課、市の介護保険課、地域包括支援センター、市の保健センター、介護保険事業所(ケアマネジャー)、民生委員 など

■障がい者(児)がサービス(支援)を受けるための窓口となっている機関や組織等はどこですか

例) 市の障害福祉課、障害者支援センター、市の社会福祉協議会、障害者相談事業所、児童福祉施設、放課後児童デイサービス事業所、民生委員 など

■子育て世代がサービス(支援)を受けるための窓口となっている機関や組織等はどこですか

例) 市の社会福祉課、市の保育企画課、子育て支援センター、市の保健センター など

■妊産婦がサービス(支援)を受けるための窓口となっている機関や組織等はどこですか

例) 保健センター、子育て支援センター、助産院 など

■食物アレルギーがある子どもがサービス(支援)を受けるための窓口となっている機関や組織等はどこですか

例) 保健センター、保健所、子育て支援センター など

■外国人がサービス(支援)を受けるための窓口となっている機関や組織等はどこですか

例) 市の国際交流課、〇〇国際交流協会 など

■市民活動団体(ボランティアやNPO)の情報を持っている機関や組織等はどこですか

例) 市の市民協働課、市の市民活動振興課、市民活動推進センター、NPO支援センター など

■災害時を想定した際の「多様」から連想できるキーワードを思いつくだけ挙げてください(単語で可)

2019年3月 作成: 特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館2階
TEL: 054-255-7357 FAX: 054-254-5208
URL: <http://www.chabashira.co.jp/evolnt>

この資料は日本財団の助成を受けて作成しました

静岡県の災害時ボランティア活動 支援の体制づくりに向けて

静岡県の地域防災計画では、県及び市町は、ボランティアの能力が最大限に発揮されるよう、ボランティアや市民活動団体の自主性・主体性を尊重しつつ、ボランティア活動の支援体制を整えることとしています。具体的には、ボランティアの活動を支援するため大規模災害が発生すると、市町及び県域の活動拠点を設置することになります。

市町の拠点は災害ボランティア本部(または災害ボランティアセンター)と呼ばれ、市町社会福祉協議会を中心に地元団体や住民等が連携し、地元主体・被災者中心・協働の原則のもとに運営されることとなります。また、県域の拠点は静岡県災害ボランティア本部・情報センターといい、静岡県社会福祉協議会と静岡県ボランティア協会が県内外の支援団体等と連携し運営にあたることになっています。これらの拠点は、いずれも災害が発生してから設置されます。

さらに、大規模災害時には、公助のみならず、さまざまな立場の民間組織等による支援活動が行われることが期待されます。被災者・被災地支援のために、市町域、県域、県外との「つながり」や「受援」を意識した活動体制づくりが必要になります。

これまで多くの市町で、災害ボランティア本部の立ち上げ訓練や研修会などが行われ、県域の拠点でも、訓練を通して課題の洗い出しや具体的な動きの検討を行うなど、平常時から災害時のボランティア活動拠点設置に備え、各地でさまざまな取り組みがなされてきています。また、被災地での支援活動や図上訓練などを通じ、被災者・被災地の多様な困りごとに対応するには災害ボランティア本部だけでなく、多様な支援者によるさまざまな関わりや取り組みが欠かせないことも学ぶことができました。

しかし実際に災害に見舞われたとき、これまでの取り組みで十分ということは決してなく、多くの学びも生かせなければ意味がありません。また、広域に及ぶ被災地で、多様な支援団体が円滑で効果的な連携をはかるための情報共有の場など、新たな枠組みづくりも必要になっています。

日々の取り組みや学びが災害時に生きるものとなるよう、今一度、それぞれの市町、また県域の活動拠点について、できていること、今後やるべきことや目指すことなどを整理し、次のアクションにつなげるための参考となるよう本資料を作成しました。

県災害ボランティア本部・情報センターを中心に、大規模災害発生時の災害ボランティア活動体制イメージと現状を示したものですが、市町においても市町域、県域、県外の支援団体・組織との連携を念頭に置きながら、地域に合った支援の体制を考えてみてください。

行政との連携

- 県域では…
- ◇決まっていること、できていること
 - ・静岡県災害ボランティア本部・情報センター（以下、県V本部）は静岡県総合社会福祉会館2階ボランティアビューローに設置する
 - ・災害時には県民生活課の職員が連絡要員として県V本部に入る
 - ・県V本部は、県災害対策本部からの情報を入手できる
 - ・市町支援チームの宿営場所が確保されている
 - ・平時から災害ボランティアについて話し合う場がある

- ◇目指すこと、方向性
- ・災害ボランティアが県の受援計画に明記される
 - ・県災害対策本部内での災害ボランティアの認知度を上げる
 - ・方面本部の情報支援チームが入手できるようにする
 - ・県との共通理解、共通認識を深める

- 市町では…
- ◆決まっていること、できていることは何ですか？
 - ◆できていないことや課題は何ですか？

行政が得意なこと、強みは？

- ・責任を持って決められたことや自分の業務を行うこと！
- ・組織として役割が決まっておあり、業務が明確！
- ・人、モノの被害情報の収集が得意！など

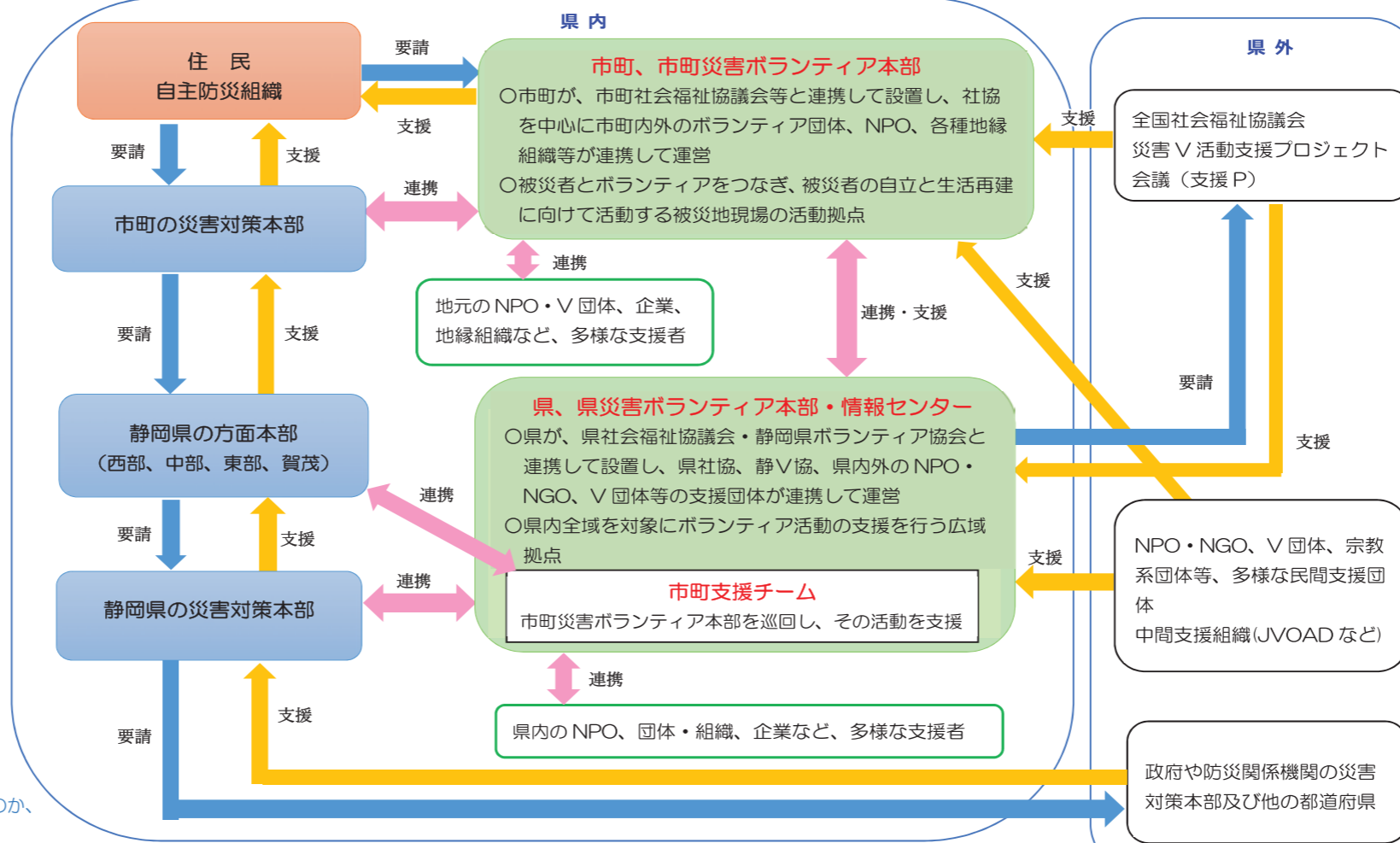


不得手なこと、弱みは？

- ・臨機応変な対応…
- ・異動があり、人と人とのつながりにくい…
- ・縦割りのため、決められた以外のことがしにくい…など

★どこがどのような“得意なこと・強み”や“不得手なこと・弱み”を持っているのか、お互いに知ることはとても大事！

大規模災害発生時の災害ボランティア活動体制イメージ



さまざまな団体の得意分野、強み 例えば…

- <ボランティアセンター支援>
 - ・災害ボランティアセンター立ち上げ、運営支援
 - ・活動用資機材の貸与、提供
 - ・オートバイと無線を使用した情報収集、物資輸送
 - ・現場の安全管理、健康管理、感染症予防、心のケア
 - <ボランティア派遣、活動>
 - ・ボランティアバスの運行
 - ・マンパワーを活かしたガテン系ボランティア
 - ・重機ボランティアの派遣
 - ・医療、福祉、理美容、語学など専門ボランティアの派遣
 - ・外国人支援、子育て支援、障害者支援、高齢者支援、IT支援などのコーディネーター
 - ・福祉避難所支援等の専門職派遣コーディネーター
 - ・傾聴サロン活動やレクリエーション
 - ・定湯ボランティア
 - ・被災者からの相談対応、被災者宅の訪問見守り
 - ・被災者のための空撮
 - ・現地ニーズに合わせた支援や新たな活動の創出
 - <避難所支援>
 - ・避難所の運営支援
 - ・避難所の環境改善のサポート
 - ・妊産婦・親子向けの生活環境の整備
 - ・食・栄養の改善支援
 - <要配慮者支援>
 - ・補助犬の使用者と補助犬への支援協力
 - ・障がい者や高齢者に焦点を当てた支援
 - ・福祉施設に対する支援
 - <連携促進、場づくり>
 - ・NPO/支援団体の連絡・調整の場づくり
 - ・人が集うための場づくり
 - ・多様な話し合いの現場でのファシリテーターとしての支援
 - <復興支援>
 - ・被災経験を活かした復興支援
 - ・被災者の手仕事支援
 - ・地域コミュニティ支援
 - <平時の活動支援>
 - ・災害や防災関連の研修、人材育成
 - ・避難所運営訓練
 - ・語り部等の派遣による事前防災
 - ・トイレの備えの啓発
 - ・女性の視点での防災活動
 - <その他>
 - ・災害関連法や制度の周知
 - ・過去の被災地支援ケースの収集・提供
 - ・災害発生時の現地調査、など
- (第14回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練県外参加団体資料より)

県災害ボランティア本部・情報センターの準備をしていること、決めていること

- ・発電機、投光機、エア TENT、衛星携帯電話、PC、電話回線など本部運営に必要なもの、寝袋など本部要員の生活支援に必要なものなどの資機材整備を進めている
- ・本部は本部長、副本部長、情報・広報班、総務班、調整班、市町支援チームで構成する
- ・総合防災訓練に合わせた本部運営や情報伝達の訓練、関係団体を交えたワークショップでの課題の洗い出し、など

「災害時のボランティア受入れ手引き（平成25年度改訂版）」を元に作成

地元のNPO・V団体、企業、地縁組織や、地元以外の多様な支援者との連携

- 市町では…
- ◆どんな団体・組織とつながっていますか？
 - ◆その団体・組織との間で決まっていること、できていることは何ですか？
 - ◆できていないことや課題は何ですか？
 - ◆「静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に参加したことがありますか？

図上訓練に参加すると、さまざまな強みを持った県内外の団体に出会えます！



NPO・NGO、V団体、宗教系団体等、多様な民間支援団体、中間支援組織などとの連携

- 県域で行っていること
- ◇協定
 - ・日本財団、静岡県、静岡県社協、静岡県V協の四者で「大規模災害発生時における支援協定」を締結
 - ◇ネットワークや会議体を通じた平時からの関係団体・組織とのつながりづくり
 - ・南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会、災害ボランティア図上訓練ワーキンググループ会議、静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練
 - ・震災がたがく全国ネットワークへの参加、など
 - ◇被災地支援活動を通じた団体・組織とのつながりづくり

東日本大震災では、海外からも多くの団体が支援に駆けつけました



★平時の活動を通じて関わりがある、災害ボランティア以外の活動分野の団体・組織とのつながりも生きる！

県内のNPO、団体・組織、企業など、多様な支援者との連携

- 県域で行っていること
- ◇協定、覚書
 - ・大規模災害発生時における災害ボランティア活動拠点に関する覚書
静岡県、静岡県社協、静岡県V協の三者が、静岡銀行、静岡労働金庫、静岡県信用金庫協会との間で、大規模災害発生時に店舗駐車場を無償で一部借用するための覚書を締結
 - ・青年会議所東海地区静岡ブロック協議会、静岡県社協、静岡県V協の三者で「災害時に備えた協力協定」を締結
 - ・静岡県商工会青年部連合会、静岡県社協、静岡県V協の三者で「災害時における支援活動に関する協定」を締結
 - ・静岡県社協がニッポンレンタカー東海と「災害時における自動車の提供に関する協定」を締結
 - ・静岡県社協と静岡県V協が、県共同募金会の助成で倉庫と資機材を購入。東・中・西部の3市町で社協、社会福祉法人、防災組織、ボランティア団体等と「災害ボランティア活動用資機材に関する覚書」を締結 ※賀茂地区も予定
 - ◇ネットワークや会議体の設置や参加を通じた平時からの関係団体・組織とのつながりづくり
 - ・南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会、災害ボランティア図上訓練ワーキンググループ会議（静V協主催）
 - ・災害支援活動を行う県域団体との情報交換会（県社協主催）
 - ・しずおか茶の国会議、など
 - <県域の活動団体：静岡県労働者福祉基金協会、静岡県労働者福祉協議会、連合静岡、日赤静岡県支部、常葉大学、静岡大学、静岡県生活協同組合連合会、静岡県国際交流協会、静岡県災害士業連絡会、静岡県災害派遣福祉チーム(DCAT)、曹洞宗青年会、SeRV静岡など>
 - ◇目指すこと、方向性（県外団体との連携も同様）
 - ・協定や覚書を実働につなげる
 - ・関係団体や組織が災害時に何をしようとしているのか、どのように動こうとしているのかを具体的に確認し、災害時に連携や協力依頼ができるようにしておく

NPO・ボランティアが得意なこと、強みは？

- ・全国各地の支援者（NPO・ボランティア）とつながっている
- ・災害ボランティア以外の分野の団体とつながりがある
- ・機動力がある
- ・被災者個々の事情に合わせた個別支援
- ・地元地域の課題を把握している、など



NPO・ボランティアが不得手なこと、弱みは？

- ・長期的・計画的な活動
- ・広域を対象とした活動
- ・人材（不足）
- ・受援経験の不足（県内団体）
- ・資金確保、など

社協が得意なこと、強みは？

- ・全国の社協ネットワークを生かした支援
- ・社協間の平時の関係性を生かした支援
- ・地域の各種団体へのつながり
- ・地域に寄り添った長期間にわたる支援活動
- ・復興期以降のまちづくり、人づくり、など



社協が不得手なこと、弱みは？

- ・福祉関係以外の分野との連携
- ・災害ボランティア本部の立上げ運営のスキル不足
- ・中長期の見立て、など

